

登録コード	E6110900	開講年度	2026				
授業科目	肢体不自由のある子どもの言語指導					担当教員	宮地 弘一郎
英文授業名	Language Intervention for Children with Motor Developmental Disorders					副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	火曜・3時限	対象学生	3
講義室	教育 E 2 0 1		授業形態	演習	遠隔授業科目	備考	旧：肢体不自由児の言語指導
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					【授業の達成目標】	
	2 6 E カリ, 2 5 E カリ, 2 4 E カリ, 2 3 E カリ, 2 2 E カリ, 2 1 E カリ, 2 0 E カリ						
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観					肢体不自由児のコミュニケーション障害を理解し支援するために必要な基本的視点を習得し、肢体不自由教育の意義と目標を設定できる。	
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能					肢体不自由の状態や特性及び心身の発達の段階等について把握し指導を行うために必要な知識・技能を習得し、それらを活用して、特に、脳性麻痺等による表出困難のある子どもを中心に、特別支援学校（肢体不自由）の教育課程の編成の方法とカリキュラム・マネジメントの考え方を理解し、応用できる。	
(2)授業で学べる「テーマ」	多文化協働、健康長寿						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	「肢体不自由児の言語指導」 脳性麻痺などが原因で運動機能をはじめとした様々な機能に重い障害のある肢体不自由児においては、子ども自身のコミュニケーションや学習における制約が大きいだけではなく、学校教員をはじめとした援助者においても子ども一人ひとりの運動障害部位の違いなど、多様な困難さがある。 この授業では、肢体不自由児のコミュニケーション支援や指導を糸口として、個別の肢体不自由児の実態把握と教育に必要な基本事項について学ぶ。 また、肢体不自由特別支援学校の教育実習、補助代替コミュニケーション（AAC）制作実習を通して、肢体不自由教育の実践方法の実際を学ぶ。						
(5)授業計画	第1回 ガイダンス～この授業で何を学ぶか／言語獲得理論 第2回 コミュニケーションの定型発達 非言語コミュニケーションの発達 第3回 コミュニケーションの定型発達 言語コミュニケーションの発達 第4回 重度肢体不自由による表出困難と学習困難 第5回 重度肢体不自由のある子どもの指導 : 実態把握・発達評価の方法 第6回 重度肢体不自由のある子どもの指導 : 自立活動、教科、生活単元学習 第7回 重度肢体不自由のある子どもの指導 : 個に応じた教育課程 第8回 補助代替コミュニケーション（AAC） 第9回 AAC制作実習 : Voice Output Communication Aid（VOCA）のデザイン 第10回 AAC制作実習 : VOCAデザイン発表／視線入力ツール制作 第11回 AAC制作実習 : 視線入力ツール発表／各AACの特性と使用援助視点 第12回 重度肢体不自由のある子どもへの指導実践例～AAC指導とAAC応用～ 第13～14回 肢体不自由教育実習（ ） 肢体不自由特別支援学校に訪問し、授業や生活介助の参観・参加を行う。各学生の実習日は5月中に案内する。他の履修授業の欠席が必要となる場合があることに留意。 実習日：下記のいずれか1日の予定です。各日程15名程度で振り分けます。 6月24日（火） 7月1日（火） 7月15日（火） 時間 : 10:00～13:20 定期試験 授業アンケート < 欠席について > ・教育実習 : による欠席については、人数により補講を実施する、あるいは各学生の欠席回の授業に相当する課題研究を提示する。 ・やむを得ない理由による欠席については、規定に基づく申請を行い証拠の確認の上で教育実習による欠席と同様の補充方法とする。 ・なお指定した補充方法を履行できなかった場合の再補充は行わない。						
(6)成績評価の方法	筆記試験（50％）、実習レポート課題（50％）						
(7)成績評価の基準	コミュニケーションおよび言語発達、肢体不自由児の実態把握と教育方法、およびこれらの関連事項について、知識の習得とその理解について、以下の基準により段階評価する。 秀(S) : 授業の達成目標の水準から見て卓越している 優(A) : 授業の達成目標の水準よりかなり上にある 良(B) : 授業の達成目標の水準よりやや上にある						

(7)成績評価の基準	可(C) : 授業の達成目標の水準にある 不可(D): 授業の達成目標の水準よりやや下にある 得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。
(8)事前事後学習の内容	授業で講義する内容は基礎的内容である。配布資料については授業外の時間に十分な予習・復習を行い、さらに授業で講義した内容やキーワードについて図書館等を活用して調べ学習を行い、知識の習得と内容の理解を図ること。 なお本科目は、授業と授業時間外での自学自習とを合わせて90時間程度の学習を原則とする。
(9)履修上の注意	本科目は「肢体不自由児の言語指導」からの名称変更。「肢体不自由児の言語指導」受講予定の学生は本科目を受講登録してください。 ・対象学年は指定ではなく推奨（2年次に受講したい学生も相談の受け入れる）。 ・肢体不自由教育臨床実習のあることを承知して履修登録してください。実習では児童生徒と一緒にグループ授業に参加する場合がありますので、こちらも承知して履修登録してください。相談がある場合は必ず履修登録前に相談してください（履修登録＝実習生として特別支援学校に名簿提出します）。 ・AAC制作実習については、材料の購入が必要になる場合があります（文具等数百円程度）。
(10)質問、相談への対応及び連絡先	メールまたは研究室訪問により対応する（アドレスは時間割表に記載）。研究室訪問は常時受け付けるが、なるべく事前に訪問日時を相談すること。
【教科書】	特になし。必要に応じて授業中に資料を配布する。
【参考文献】	【参考文献】 Bates, EC. & Volterra, V., 1975, The acquisition of performatives prior to speech. Merrill Palmer Quarterly, 21, 205-226 . Bruner, JS., 1983, Child's Talk: Learning to Use Language. Oxford: Oxford University Press. 岩立志津夫・小椋たみ子編 よくわかる言語発達（やわらかアカデミズム・わかる シリーズ）. ミネルヴァ書房, 2005. 加藤俊徳・坂口しおり編著 脳と障害児教育—適切な支援への模索—. ジアース教育新社, 2005. 鯨岡峻著 原初的コミュニケーションの諸相. ミネルヴァ書房, 1997. 小出進監修, 信州大学教育学部附属養護学校著 新しい生活単元学習の創造. 日本文化科学社, 1980. 小池敏英・北島善夫著 知的障害の心理学—発達支援からの理解—. 北大路書房, 2001. Marini, et al, 2007, Evaluation of narrative abilities in patients suffering from Duchenne Muscular Dystrophy. Brain and Language, 102, 1-12. 坂口しおり著 障害の重い子どものコミュニケーション評価と目標設定. ジアース教育新社, 2006. 坂口しおり著 コミュニケーション発達支援シリーズ 絵で見る言葉と思考の発達. ミネルヴァ書房, 2009. 進一鷹著 重度・重複障がい児の発達と指導法. 明治図書, 2010. 信州大学教育学部附属養護学校編 小出進講演集—子ども主体の学校生活—第2版. 信教印刷, 2010. Skinner, BF. 1957, Verbal behavior. New York: Appleton-Century-Crofts. 綿巻徹, 1983, 統語発達に遅れのある就学前精神薄弱児の言語—会話構造と一語発話の実用機能—. 昭和57年度科学研究費（一般B）研究成果報告書（研究代表者 天野 清）, 81-98. 伊藤, 2012, 教室でいきるAAC. 渡邊・湯浅・清水（編著）, キーワードブック特別支援教育の授業づくり-授業創造の基礎知識-クリエイツかもがわ その他、適宜紹介する。